

◇編集後記◇

早いもので2006年(48巻)の最終号をお届けすることとなりました。本年1月から現在までの投稿数は、産衛誌32編, JOH136編, また本年計6号分の掲載数は、産衛誌14編, JOH71編でした。すでにご報告したインパクトファクターの上昇と併せ、定期的にこれだけの論文掲載を継続できましたことは、会員の皆さまによる投稿ならびに査読のご努力の成果と存じます。編集委員会として、深く御礼申し上げます。今号のJOHに掲載されたRapid Communicationは、最近グルタルアルデヒドの代替物質として滅菌に使用され始めている α -phthalaldehydeの感作性に関する症例報告です。より一層スピーディーで質の高い論文掲載へ向け、電子投稿の実現など編集委員会としての努力を続けていきますので、引き続き、投稿・査読両面でのご支援をお願いいたします。

ところで今夏、文部科学省から「研究活動の不正行為への対応のガイドラインについて」に関する特別委員会の報告書が出されたことをご存じでしょうか。これは、最近とみに取り上げられることの多くなった研究活動に

おける不正行為について、とくに公的研究費との関連で策定されたものですが、しかし研究一般の推進にあたって、研究者の倫理の観点で共通かつ重要な点が示されています。とくに、不正行為を知の生産活動である研究活動における「知の品質管理」の問題として捉え、研究者の責務の観点から、研究者自らの規律、並びに研究者コミュニティ、大学・研究機関の自律に基づく自浄作用として対応がなされるべきとされたことは、大変重い意味を持っていると感じます。常に現場で働く人々のことを念頭に置きながら発展してきた産業衛生学の分野においては、こうしたことが起こりにくいと考えられますが、社会から信頼される科学的活動の継続のためにも、学会としてあるいは雑誌として努力することに加え、研究者ひとり一人が、研究の質・信頼性の維持に必要な品質管理という観点から、研究のプロセスを見直していくことが重要ではないでしょうか。

(武林 亨)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：竹下達也 (和歌山医大)

副委員長：圓藤陽子 (東京労災病院), 武林 亨 (慶應大), 堤 明純 (産業医大),
本橋 豊 (秋田大), 森 満 (札幌医大)

荒木田美香子 (大阪大), 有澤孝吉 (徳島大), 市場正良 (佐賀大), 掛本知里 (東京女子医大), 上島通浩 (名古屋大), 車谷典男 (奈良医大), 甲田茂樹 (安衛研), 河野公一 (大阪医大), 西條清史 (金沢大), 榊原久孝 (名古屋大), 澤田晋一 (安衛研), 塩飽邦憲 (島根大), 笠島 茂 (国立保健医療科学院), 埜田和史 (滋賀医大), 谷川 武 (筑波大), 錦戸典子 (東海大), 橋本英樹 (東京大), 濱田篤郎 (海外勤務健康管理センター), 保利一 (産業医大), 森河裕子 (金沢医大), 森田 学 (北海道大), 森本泰夫 (産業医大), 八幡勝也 (ヒューマンメディア財団), 若林一郎 (兵庫医大)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番